

現JR飯田線の「天竜峡～三河川合(愛知県新城市) (約70km)」区間で、1937(昭和12)年に全線開通した。天竜川の侵食による険しい峡谷に沿って造られており、トンネルが数多い。そのため日本の鉄道史に残る難工事となった。鉄道は、泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。

為栗駅してぐりの北西には、信濃の橋百選に選定されているまんごがわきょうりょう万古川橋梁がある。



天竜川対岸から望む万古川橋梁



為栗駅と、駅に渡るための天竜橋



万古川橋梁

information

□ アクセス  
(万古川橋梁)  
天竜峡ICから25km  
車→50分

□ 所在地  
新城市川合～  
飯田市川路天竜峡



北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。

為栗駅側に車道はなく、歩行者用の天竜橋を渡っていかなければならない。万古川橋梁のたもとまでも、歩道があり歩いていくことができる。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)